

磐城青年新報

新報定價 一月一元 三月二元 半年四元 一年七元
廣告刊例 第一版每行一角 第二版每行八分 第三版每行七分
發行所 磐城青年新報社 地址 磐城郡新町五丁目
電話 二五八 郵政掛號 第五〇九號
印刷所 磐城印刷局 地址 磐城郡新町五丁目
電話 二五八 郵政掛號 第五〇九號
字號 漢字 八分 印刷 鉛字 八分 印刷 鉛字 八分
酒井與市郎

再び推されて起つた

衆議院議員 候補者 木村清治氏

堂々戦陣を張る石城政友部會

必勝を期し決死的運動開始

石城地方政界は第五十七議選準備を整ひ堂々戦陣を宣し會の解散に依つて異状な緊張を示し政友部會、民政部會では必勝を期して總選舉場裡にのぞみ、大改造直後の石城政友部會では一糸亂れざる統制のもとに豫選會を平町に於て開催した、中央政界の大局から見て是非勝たねばならない選舉なので、候補者の選定については特に審重な態度をとり幹部會では第一候補に木村清治氏を挙げ更に第二候補を金成通、第三候補に鈴木辰三郎兩氏を推し豫選會にのぞんだ、各町村一名の選衛委員をあげて協議した結果解散に依る選舉には前代議士を推すべきであること云ふ常道に則り満場一致前代議士木村清治氏を推薦する事に決定を見た、豫選會の推薦を受けた木村氏は多數同志の熱烈なる要望に、近親者が出馬を希望しないにも拘らず敢然と起つて立候補する事に決意をなし、部會の推薦を受諾したので、政友部會では直ちに諸般の

推薦状

謹啓
嚴寒之候益々御清榮の段奉賀上候
陳者第五十七帝國議會は解散せられ来る二十日を以て總選舉執行の事に相成候處吾が政友會に於て解散選舉の常道に則り前代議士木村清治氏を最適任者として推薦する事に一決致し候
木村清治氏は人格崇高識見卓越し吾人の選良として誇るに足るは既に御承知の如く曩に氏を議會に送るや寢食を忘れて邦家憲政の爲め奔走してやまず清廉高潔なる政治家として疾くに認められ昨年獨逸にて開催されし萬國議院商會に代表委員として派けんされしは獨り氏のみならず氏を送りし吾等選舉民の等しく誇りとする次第に候
茲に再び氏を推薦するに

必勝を期して

石城政友部會

統制ある其の運動

其意氣や先づ敵をのむ

前代議士木村清治氏を候補として當然免がれる事の出かたりのきよう威でもある大改造直後であり是が非でも必勝を期さねばならない戦なので、從來政友會の保守的態度を一變し選舉運動の組織も遊説部、監視部、宣傳部等に分ち組織統一あつて運動をなす事になつた、遊説部は之れを三班に分ち石城郡内に於て堂々と論陣を張り政友會の主義政策を一般に普及徹底せしめ以つて水村候補の當選を期する事になつた、監視部は野黨

木村候補の大言論陣

第一部長 鈴木縣議

第二部長 井上前縣議

第三部長 古川縣議

木村候補の政見發表演說會記の通りである
第一部長 鈴木辰三郎
千葉彦治、大河原茂平、柏木勝利、横山顯、吉田昌弘、多田井笑次郎、永

産業立國を説く

木村清治氏

立候補の挨拶

今回の總選舉に當り有志各位の熱烈な御推薦を受け再び衆議院議員候補者として出馬するの光榮を擔ひました事は私の最も感激に堪えない處であります。
此際卑見を述べて御挨拶に代へる事は私として誠に欣快と存じます。何と言つても此の深刻な不景氣、産業の不振を一日も速かに恢復し振興する事が最も焦眉の急務であると思存じます。民政黨は金



木村清治氏

こそ重大な問題であり、鐵道、港灣、道路各種工業等の如きは何れも直接

時事寸評

山勇吉、酒井喜代正、西丸政雄、鈴木木勇
第二部長 井上茂作
大峯庫、田村參也、川崎文治、武藤豊、真木桓、馬目武之助、緑川喜三郎、門傳清吾、齋藤敏實、三森虎雄、酒井清
第三部長 古川傳一
押田憲一、櫛田市松、緑川信夫
五日 鹿島、飯野
六日 高久、夏井、豊間
七日 泉、玉川、小名濱、好問
九日 内郷、湯本、平中三坂
十日 永戸、合月、澤渡
十一日 草野、神谷、大野、四倉
十二日 大浦、小川

立看板、推薦状、挨拶状演說會ピラ、等、有権者は洪水に泳ぐの氣持ち。
政友二名、民政二名、公認四名の候補、果たして何人が中原の鹿を射とむか？運動員血眼。
民政黨部會二分分裂、矢張野に置けの類、膨張して此の悲哀あり

際、彼の元氣あり潑瀾たる生活状態を觀て一層此の感深くしたのであります。
民政黨の消極政策は産業を萎縮し、國富を減少し國民生活を脅威し、より一層深刻化せしむるのみで誠に重大な危機に直面して居る事を痛感し現内閣を倒壊一日も速かに經濟界を匡救して國民生活の安定を計らなければならぬと考へるものであります。
今茲に立候補に際しまして所信の一端を述べ御支援を切に御願ひする次第であります

或は間接に國富を増進するもので、此の事業の殆んど全部を中止繰延べ或は廢止する事は國富の減少、不景氣の招來失業者の續出、等々の國家的不

聴け！純真なる若人の叫びを！！

會員にのぞむ

西山徳一

嘗て吾が同盟會が社會進出の第一歩として前回の總選舉に遊説部隊を構成し政治運動にたづさはり本會の綱領並に吾々の果すべき使命を多くの選舉民に向つて訴へました而して當時多數の共鳴者を得ましたことは今更ら乍ら喜びに堪えませんそれ以來今日に至る二ヶ年其の間に於ける我が國の形勢を達觀しまするのに社會思想の變革政界の推移經濟界の恐慌實に國家存亡の危機なるを痛感するるのであります吾々が殊に聲を大にして政界の革新所謂正しい明るい政治の實現を叫びしが甲斐なく政界は依然として腐敗墮落の極にある今日であります故に吾々は又も意を固ふして敢然として起ち甦生の日本を建設すべく重大なる責任と大なる覺悟を痛感し國難に善處せねばならんと思ひますかつて田中内閣が滿洲事件の責めを負ひ辭職するや民政黨演説口内閣出現し十大政綱を掲げ殊に一枚看板たる緊縮政策を以つて行き詰りたる經濟國難に善處せんとしたのである

ります公私經濟の緊縮もとより然り無駄を省いて能率の増進を圖ることは最も肝要であります。然し民政黨が苦節十年野に在りて國民に公約せる政策の一も爲す所なく國民生活の實狀をも解せず只單なる緊縮政策は返つて國民生活をして萎縮退えいに導き不景氣は益々深刻となり失業者は群をなして續出する有様であります。彼等は云ふ緊縮は伸びんがために縮むるのであると然らば現在國家の六割を占むる農村に對し如何なる政策を以てし農村の疲弊困ばい其の極に達し生活難の聲やかましく今日に於てこの農民のさげが農村の悩みを救濟し振興策を講ずるは一日もゆるがせにならぬ國家の緊急問題であります。然るに現内閣は實行豫算を以つて農林省豫算の大半を繰延べと削減とを敢へてし而も平然として伸びんが爲めの緊縮とは何事なるか縮むるもよいが傷を負ひ氣力を失つたならば伸びる力は何處に在りや誠し農村を蹂躪せし其の暴政吾々農民が果し

國民に問はんとすこれ實に來る二月二十日の總選舉にあり國民訓練の重大なる機運正に來れり吾々の一の宣傳や空虚な言論を述べたる時ではない、堅い信念と強き決意を以つて起たねばならぬ。愛すべき會員諸彦に吾等の戦ふべき時は來たす組閣以來未だ半歳の間減俸問題で世人を騒がせ空前の共產黨の大檢舉で國民を戦慄せしめ或ひは頻々として起る疑獄事件金解禁後の前後策等實に現内閣はこれ等の難關に窮し殊に議會の少數黨によつて支持せる濱口内閣が果して國民の要望せる國政の運行と政局の安定を期することが出來得べきか彼等は少數黨なるが故に議會を解散し所信を

本會の主張

鈴木勇

我々は常に社會改善思想善導政治の公明を標しし廣く社會に聲明し居り、今や着々としてその實行に進みつつあるのである。従つて、我々は政友會の別動隊でもなければ又民政黨の走狗でもない獨立したる青年の政治結社である、是れまで幾多の總選舉に際しても我々の主義綱領に共鳴或は深き理解のある士に對しては常に應援し來たのである、

國民に問はんとすこれ實に來る二月二十日の總選舉にあり國民訓練の重大なる機運正に來れり吾々の一の宣傳や空虚な言論を述べたる時ではない、堅い信念と強き決意を以つて起たねばならぬ。愛すべき會員諸彦に吾等の戦ふべき時は來たす組閣以來未だ半歳の間減俸問題で世人を騒がせ空前の共產黨の大檢舉で國民を戦慄せしめ或ひは頻々として起る疑獄事件金解禁後の前後策等實に現内閣はこれ等の難關に窮し殊に議會の少數黨によつて支持せる濱口内閣が果して國民の要望せる國政の運行と政局の安定を期することが出來得べきか彼等は少數黨なるが故に議會を解散し所信を

民購買力のよく壓を行つてゐる様なる状態にあり斯の如くは國民は益々萎しく且つは疲弊せる我々國生産工業を併せておしこする事が果して金解禁の準備でありませうか國民の消費なき所に生産はないのである、米國の繁榮の基礎は實に消費のわう盛にあると言はれて居るのであります。或は曰く現内閣は我國に六十億餘の内外國債と行詰れる此財界の樹立は金解禁一途あるのみと。然しながら我々は公債財源により得たる歳出を補充する事は決して悪い事ではあるまいと考へられ

つつあると考へられます即ち蠶糸の製産技術並に生産量は著しく改善され養蠶事業は大いに勃興し支那から來る二千萬圓の鶏卵は殆んど輸入絶滅の有様になり紡績は太糸から細糸に、細糸から綿布に綿布は加工綿布の生産に著しき進境を示しつつあり、砂糖は今や自給自足より一步輸出に轉せんとしてゐる有様であります、其他人造肥料、人絹化學工業製鐵業或は漁業等に漸次新興の機運に向ひつつあるが俄然金解禁に遭遇此の芽生いつつある諸産業に甚しき傷を負せるに非ずやと思はれるのである、元より我々新聞紙上により見聞しての批評に過ぎざれども兎に角我々は民政黨の政さく共鳴せざる所以が此の點にあるのであります。

赤銅居士論

YS 生

私は一名赤銅居士即ち木村候補が如何なる人であるかを最も若い時から知つてゐるもの一人として論じて見たい、氏は大浦村に生れた刀圭界の先輩である地方では三十年この方島の先生と云ひば氏の代名詞として知られてゐた位有名であつた、二十有餘年前から縣會の人となり更らに國會に參與したが常に頭の低い親

切な平民的態度は何人も敬服してゐるものが多く由來政治家は地方人殊更ら農村の何人からも嫌はれるのが常なのであるが氏に至つては反對に歡迎され親しみのある交誼をむすんでゐたからであると思はれる、醫者として亦是政治家として有名であり更らに赤銅居士として多數人に知られた木村氏を再度石城政友會が推したことは最も強味のある點

石版活版印刷物
丸山印刷所
平驛前 電話二五八番